

挑 戦

中村敦夫



福島原発事故以来、私は表現者として何を描くべきか迷い続けてきました。

社会哲学としても政治哲学としても、私はエコロジーを中心に掲げてきましたので、原発問題は最重要テーマのひとつでした。しかし実際事故が起きてしまうと、更なる知識の習得と問題理解の必要性を痛感させられました。

何度か福島を訪ねたり、チェルノブイリを視察したり、資料を読み込んだりしているうちに、どんどん時間が過ぎてしまいました。

そこで、私が獲得したものの中から、最も重要と思われるものをいくつか選び出し、人々に分かりやすく伝えたいと思いました。

私は、自分の原点である演劇の活用をトライしてみることにしました。私が青春時代を過ごした新劇界は、社会問題と正面から取り組み、オピニオン・リーダーの役割を果たしました。

特に、私が所属していた劇団俳優座は、ベルトルト・ブレヒト（独の劇作家）の提案する新しい演劇理論の実践に挑んでいました。従来の演劇は、社会を人間関係や個人の問題として捉え、観客の情念や感情を揺さぶる技術をドラマツルギーとしてきました。

これに対し、新しい演劇は、「啓蒙演劇」と呼ばれ、社会の不条理や不幸をもたらす構造を分析し、発見の驚きや、理解の喜びを与えようとするものでした。

私が今回脱稿した「線量計が鳴る」は、この種の演劇の延長線上にある実験作品のつもりです。

中村敦夫プロフィール

1940年東京生まれ。幼年期に父の出身地である福島県いわき市に疎開し小中学校を過ごす。1958年東京外語大学に入学。在学中に演劇に興味を持ち大学を中退、1960年俳優座養成所、1963年には俳優座に入団。そして1972年放映の「木枯し紋次郎」が空前のブームになりその後も数々の主演を務める。1984年には情報番組「地球発22時」のキャスターに起用される。1998年参議院東京選挙区から立候補して当選。2002年には党名を「みどりの会議」に変え、日本最初の環境政党を作ろうと全国の組織化に奔走する。2004年政界引退を表明。2012年には日本ペンクラブのチェルノブイリ視察団に参加。2015年にNHK連続テレビ小説「まれ」に出演。2016年11月福島県喜多方市から朗読劇「線量計が鳴る」の公演をスタートさせ、以後「百都市公演」を目指して活動中。

仙台市宮城野区五輪2-12-70

宮城野区文化センターへのアクセス

TEL: 022-257-1213

ご来場の際は、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

●JRでのおいでの方

JR仙台駅から仙石線下り方面行きで6分、陸前原ノ町駅下車すぐ。

●バスでのおいでの方

仙台市営バス、仙台駅前18・50・51番のりば→宮城野区役所前下車すぐ

宮城交通バス、仙台駅前50番のりば→宮城野区役所前下車すぐ

チケット取り扱い協力団体

みやぎ脱原発・風の会

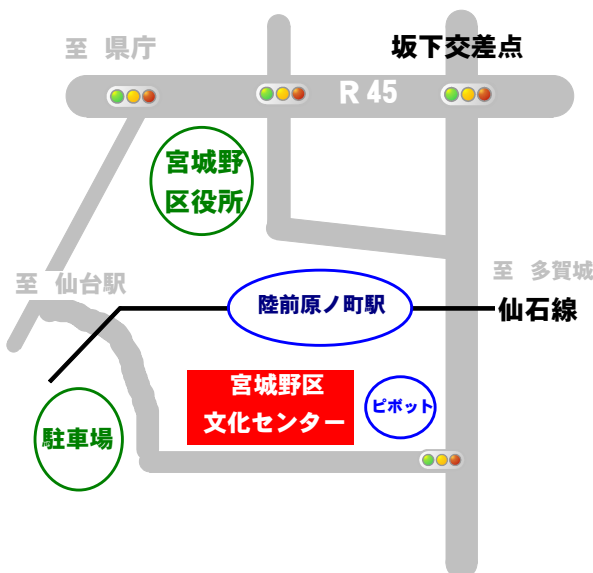
放射能問題支援対策室いずみ

みんなの放射線測定室「てとてと」

せんだい映画村 (070-5323-1939)

右岸の羊座シネマテーク (070-5326-1974)

カトリック正義と平和仙台協議会



*本公演の収益金の一部は「3.11甲状腺がん子ども基金 www.311kikin.org/」へ寄付されます。